

2012年(平成24年)12月1日 土曜日

日 本 海 新 聞

読者のひろば



〒680-8688鳥取市富安2丁目137  
新日本海新聞社「読者のひろば」係へ



gakugel@nnn.co.jp

紅葉美しい11月初旬、鳥取県中部で開かれた100キロウォークに参加した。20年ほど前に60キロを歩いたことはあったが、さすがに100キロは未知の世界。身のほど知らずだったと後悔したのは、35キロ地点だった。すでにいかかどにマメができ、痛い痛い。職場の人や見知らぬ方に励まされて53キロ地点に着いたときは、私がラストだった。豚汁とおにぎりでおなかを満たし、足をもんでもらって夜の11時に出発した。睡魔とタメシと折れそうになる心でペースタウンした私に、S氏が9時間も一緒に歩いてくださり、心強かった。夜が明け始め、雨も激

## 散歩道

## 「人生の縮図」の24時間

しくなってきたころ、私 歓喜の涙が頬を伝い、ほはひとり。最後のポイントの参加者やスタッフとトでリタイアして楽にならなハグして喜びを分かち合るう、そつ言い聞かせて、った。やっとの思いでたどり着 今回は自分の限界へのいた。チャレンジだった。皆のところが、ここからが応援に背中を押されて完奇跡の始まりだった。本歩することができたと思部から、制限時間を超えう。人はひとりでは生きても待つとの連絡が入っていけない。この24時間た。私一人のために。涙は人生の縮図だった気ががこぼれそうだった。温する。情に応えるには「時間内 延べ43人のチャレンジのゴール!!」。心の持ちや、ボランティアスタよつで人間って変わるも ッフや大会事務局などすのだ。驚くほど元気が湧べての方々に、「ありがとうきた。スタッフの励とう」と言いたい。来年ましもあり、今ままで一は、もっと多くのドラマ番早いペースでラスト15 が生まれることを祈ってを歩き切ることができる。

橋本 和枝(倉吉市下  
ゴールの燕趙園に着い 大江、54歳)  
たのは、制限時間15分前。